

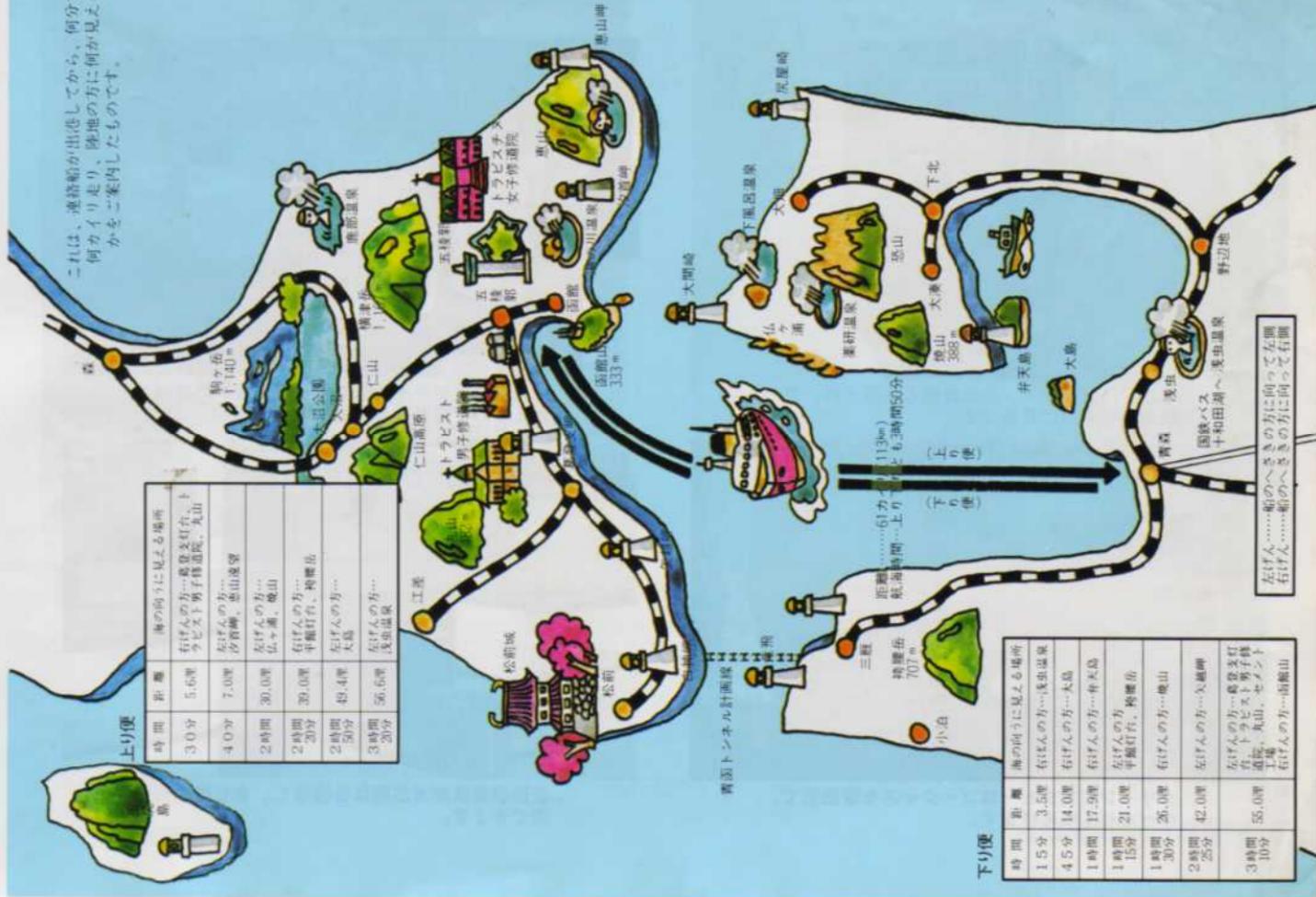
連絡船の旅



青函船舶鉄道管理局

内案二の旅船

では、連絡船が出港してから、何分で明け方イリ走り、陸地の方に何が見えるかを案内したものです。





時間	着地
30分	右側 (右の角)に見える場所
5.6W	右ビンの方…暮支打村、丸山
40分	左ビンの方… 沙賀崎、並山展望
2時間	30.0W 左ビンの方… 佐々木、山川
2時間	右ビンの方… 半船打村、神経岳
2時間	左ビンの方… 人馬
3時間	左ビンの方… 佐々木、山川
3.2W	左ビンの方… 佐々木、山川

これは、連絡船が出港してから、何分で何方イリ走り、陸地の方に何が見えるかを二案内したもので+



連絡船の旅

☆連絡船のうつりかわり

国鉄が青函航路を開設したのは、明治41年3月で日本最初のターピン船比羅夫丸・田村丸がはじめて就航しました。

この頃は、お客さまははじけて乗り降りし、荷物は荷役によって積替えしていましたが、需要が年々増えてきましたので、大正13年翔鳳丸・飛鸞丸・旧津軽丸・旧松前丸を建造し、大正14年8月から貨物を積んだ貨車をそのままはこぶ貨車航送が開始されました。

昭和20年第2次世界大戦終戦直前の空襲によって、9隻の連絡船を失いましたので、昭和22年洞爺丸など4隻の客船が就航しましたが、昭和29年9月第15号台風によって、洞爺丸と4隻の貨物船が沈没し、多くの尊い人命を失いました。

昭和39年5月洞爺丸の沈没事故を教訓とした津軽丸を第1船として、安全・快速・豪華を誇る同型船7隻が勢ぞろいしました。

昭和42年6月からは、連絡船による自動車航送が実施されて、お客様といつしょに自動車も運んでいます。

昭和44年10月更に貨物を円滑に運ぶため、55両の貨車を積む大型・高速貨物船渡島丸を第1船として、同型船3隻が就航し、同時に、青函航路の無煙化が実現しました。ついで昭和51年には空知丸、桧山丸、石狩丸の大型貨物船が就航し、輸送力は大幅に増強されました。

豪華客船として活躍していた津軽丸は昭和57年3月、松前丸は同年11月青函航路の役目を終り、この代りとして、貨物船石狩丸と桧山丸が客貨船に改造されて就航いたしました。その後、貨物輸送システムの改善で59年2月、渡島丸、日高丸、十勝丸が廃船となりました。

このように長い歴史と伝統を経て現在にいたっていますが、青函連絡船は、本州と北海道を結ぶ、国鉄輸送の大動脈として客貨を安全にそして迅速に輸送することに努めています。

船旅のご案内



▼日本最初のターピン船 比羅夫丸



▼連絡船貨車航送 荷物を積んだ貨車をそのまま運びます。



○青函連絡船・自動車・バイク・自転車航送のご案内



○乗用車・バイク・自転車は豪華で安全な国鉄連絡船で!!

※石狩丸、桧山丸はバイク・自転車も航送いたします。

○自動車航送料金 (運転者1名分の運賃を含む)

自動車の長さ	3メートルまで	4メートルまで	5メートルまで	5.3メートルまで
料 金	9,700	12,900	16,200	21,100

※ 自動車の長さ5.3メートル、幅2.1メートル、高さ1.95メートル、重さ2.5トンまで取扱いいたします。

※ 往復券同時購入のときは、復路について料金を1割引をいたします。

○バイク・自転車航送料金

バイク	125cc以下	1,100
バイク	125ccを超えるもの	2,200
自転車		700

※バイク・自転車は直接カーフェリー駐車場までおいで下さい。

☆快適な連絡船の旅

- 津軽海峡の眺めはすばらしく、連絡船が海峡のながばにさしかかるころ、ひょうきん者のいるかの群があらわれるなどして船旅を一層たのしいものになります。
- 客室は椅子席とすわり席に分かれています、スペースも広く、ゆったりした船旅をお約束します。
- 窓の大きさもワンと広くなっています、展開するすばらしい海の風光を心ゆくまでごらんになれます。明るい船内には、冷暖房や温水もととのえられています。
- 座席指定席は、リクライニング・シートで65度までかたむいて楽に休むことができます。ベッドルーム、ロビー、食堂、喫茶室、シャワールームなどもあり、豪華なホテルを思わせるテラックスムードがいっぱいです。

▼楽しい船の旅



▼船内喫茶「サロン海峡」



寝台室



ベッド、ソファー、洗面設備も完備され、長旅をいやすに最適です。

グリーン指定席



一人掛けのリクライニングシート、背が65度倒れますので寝台替りにも十分です。

グリーンロビー



グリーン船室ロビーはゴージャスな雰囲気で、ゆっくりくつろげます。

普通船室



普通船室後部大広間は各種催し、会合等に利用できます。

☆連絡船のシンボルマーク

- 昭和52年3月に青函航路開設70年を記念して、みなさんの連絡船として親しんでいただきたためにシンボルマークをつくりました。
- マークは津軽海峡の人気者、いるかと救命フイを組合せ、それに船名にちなんだ特長をいかしてつくっており、みなさんの楽しい船旅を願っております。



船名	船名にちんだ特長
八甲田丸	八甲田山脈と水蓮沼
大雪丸	大雪の熊
摩周丸	神秘の湖摩周湖
羊蹄丸	蝦夷富士・羊蹄山
十和田丸	湖面輝やく十和田湖
石狩丸	石狩川の鮭
桧山丸	江差のかもめ
空知丸	初夏の香りすずらん

☆連絡船の豆知識

- 連絡船の大きさは8,000トン級の大型船です。
- 函館～青森間の距離は61海里（1海里は1,852メートル）で約113キロメートルあります。
- 連絡船の速力は18.2ノット（1ノットは1時間に1海里の速さ）で1時間に約33キロメートル進みます。
- 連絡船は函館～青森間を3時間50分のスピードで航海します。
- 現在、活躍している客貨船は7隻（八甲田丸、大雪丸、摩周丸、羊蹄丸、十和田丸、石狩丸、桧山丸）あります。
- 貨物船は1隻（空知丸）あります。
- 連絡船の燃料は軽油で1航海（函館～青森）に6,600リットルつかいます。石油かん（18リットル）にして約366かんで、ご家庭で暖房のため1年間に100かんつかうとして3年半分にあたります。
- お客様さまはグリーン客室が316名、普通客室が970名で全部で1,286名、自動車は12台積むことができます。（石狩丸、桧山丸は普通客室のみ650名、自動車は20台の他、バイク・自転車も航送しています）

■連絡船の新しいしくみ

連絡船は前方の見えない濃霧や、はげしい吹雪の時には、いろいろのすぐれた機械が自動的に船の位置や、他の船の位置を知って安全に航海するようになっています。

お客様に安心して楽しい旅をしていただくための新しいしくみがたくさんあります。

★推進プロペラ

船橋からプロペラの翼を自由に変えることができるので、速さを変えたり、前進後進が自由に行なえます。横に進めるプロペラ（パウスラスター）もあって、岸壁に着いたり離れたりするのに大へん役立ちます。

★自動制御

いろいろの機械や計器の記録、異状、警報などが自動的に行なわれる所以、異状があればすぐわかります。いろいろの記録は、ボタンをおしだけでわかります。エンジンは制御スタンドでワンマンコントロールができます。

★レーダー

反射する電波をとらえて、陸地やほかの船の位置などをみきわめることができますので、くらやみでも、霧の中でも、安全に走ることができます。

★防火設備

連絡船のなかには多くの火災警報装置がついていて、人のいないところでも自動的にわかるようになっています。消火しにくいところは天井などから自動的に水が出て消火します。

★救命設備

船体は13の区画にくぎられていて、ある部分に水が入っても沈まないようにつくられています。ゴムの救命ボートは自動的に海面にすべりあろされ、すべり台のようなシユーターから全員安全に乗れるように用意されています。

